

# 4-6

演題	ずっと我が家を目指して
副題	～かかわりを通じて、見えてきたこと～


法人名	社会福祉法人 上溝緑寿会
施設名	ずっと我が家上溝本町

発表者名 (職種)	庄口 美咲 介護職員
共同発表者	ホス 亜希
共同発表者	西澤 典久
共同発表者	平田 まどか
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	相模原市中央区上溝 6-2-22
TEL	042-762-0013
FAX	042-713-3165
メールアドレス	day@cosmos-c.or.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	デイサービス、ホームヘルプ、ショートステイを展開する在宅サービスの複合拠点として、また地域福祉を推進していく上での活動拠点として、平成25年12月に開設いたしました。大桜や蔵のある広場があるのが特徴です。
---------------------------	--

## 研究の目的、PR ポイント

利用される方の立場になって、馴染みのある環境設定をして、数多くの認知症の症状がある方に利用していただいています。今回は環境だけでなく、各専門職との連携と、その方に応じたケアの取り組みにより、穏やかに利用ができていた事例を通じて、取り組んできたことで共通する内容などを見出すことができるのではないかと思います、まとめてみました。

## 取り組んだ課題

私たちは認知症高齢者の方々が住み慣れた地域で生活を継続していく上では、ショートステイが必要だと考えます。ただ認知症でも様々な症状があり、利用することに高いハードルがあることも事実です。そこで実際に利用された方々を中心に、各専門職が課題を共有し連携を取る中で、どのようにして状態の改善または維持を図ることができ、安心して過ごすことができるのか、そのケアの取り組みについて紹介していきます。

## 具体的な取り組み

環境設定としてユニット単位となっており、個室とリビングといった公私を明確にした生活空間を設定し、木造住宅ならではの落ち着いた室内環境や四季の移ろいが実感できるように、窓枠を広場が眺められる位置に設定するなど、今自分がどこにいるのかを実感してもらい、安心して過ごすことができる環境を準備しました。その中で次のような内容について主に取り組んできました。

- ① 積極的なコミュニケーション  
見知らぬ場所や人の中での不安感を軽減するため、まずは会話を通じて安心していただくこと。また今までの在宅生活に近い環境を提案できるような様々な情報を収集すること
- ② 状態の観察  
現状の課題を抽出し、本人に合わせたケア内容を決める為、認知症状の程度やADLを把握すること
- ③ 他者との交流  
会話やレクリエーションへの参加を促し、楽しみや発見、意欲の向上に繋げていくこと

## ④ リハビリの実施

体操や散歩の実施にて、体力の低下予防・維持向上を図り、一日でも長く健康でいられる身体を目指すこと

## 活動の成果と評価

環境の持つ力によって、認知症高齢者の方々も初日は落ち着かなく不安な様子を見せられることがありますが、2日目には、表情も和らぎ落ち着いた姿をみせられます。また食事・水分摂取量や排泄状況などから認知力が低下している要因を探り、その方のケアのポイントを統一し実施していくことで、徐々に身体機能も改善し、認知力も高まっていきます。通常であれば、ほぼすべての方がこれにより周辺症状の緩和が見られます。また適切にかかわりながら、その人の居場所を作ることにより心の安定を図ることができ、日常の家事仕事などを実施するなど役割を作ることもその一つです。

## 今後の課題

利用者の方々は、日々生活を共にする中で、とても生き活きとした表情や場面をみせてくれます。認知症であっても、まだまだ凄いと感じる能力を持っています。家族の方に、残された能力の素晴らしさをどのように伝えていくかということ、日常生活での介護のポイントをどのように伝えていくかが課題となります。

## 参考資料など

自立支援介護ブックレット（筒井書房）

- ①水
  - ②歩行と排泄
  - ③認知症ケア
  - ④食事
- 著書 竹内 孝仁